

月刊 新聞ダイジェスト

時代はいま、どう動いているのか! 連載 読み比べ

6大新聞
今月の社説
読み比べ

2024 No.827
12
掲載月日
'24.10.1
10.31

大谷2冠王 ドジャースがWSを制覇 衆院総選挙 与党が過半数割れに

読売新聞特集 今月の注目記事/New門/就活ON!
好評連載 今月の気になるニュース解説/最新時事用語の解説/時事問題模擬試験
連載 中学生高校生の新聞活用教育に迫る【関東学院六浦中学校・高等学校】



石破氏首相に就任 新政権発足/総選挙公示 自民裏金議員12人を非公認
日本シリーズ ソフトバンクvs.DeNA/米大統領選「10月のサプライズ」あるか
住宅ローン金利 変動型引き上げへ/カスハラ防止条例 都議会で成立
ノーベル賞2024 被団協に平和賞/地震・豪雨 能登被災地の今
袴田さん 無罪が確定/同性婚否定は「違憲」東京高裁
侵略2年8か月 北朝鮮が露に派兵か/ガザ戦闘1年 拡大する戦闘・人道被害

新聞ダイジェスト

CONTENTS

24年 12月号

記事特集

大谷2冠王 ドジャースがWSを制覇	8
日本シリーズ ソフトバンク vs. DeNA	14
石破氏首相に就任 新政権発足	18
総選挙公示 自民裏金議員12人を非公認	24
衆院総選挙 与党が過半数割れに	28
米大統領選「10月のサプライズ」あるか	34
住宅ローン金利 変動型引き上げへ	36
カスハラ防止条例 都議会で成立	38
ノーベル賞2024 被団協に平和賞	40
地震・豪雨 能登被災地の今	46
袴田さん 無罪が確定	50
同性婚否定は「違憲」東京高裁	52
侵略2年8か月 北朝鮮が露に派兵か	54
ガザ戦闘1年 拡大する戦闘・人道被害	58

■ 連載 放課後「新聞カフェ」で考えを深める【関東学院六浦中学校・高等学校】	4
■ 今月の気になるニュース解説①②	6
■ [NEWS月録] 2024.10.1(火)～10.31(木)	62
■ 読売新聞特集 今月の注目記事	64
■ 今月の社説読み比べ	68
■ 政治	86
■ 経済	96
■ 国際	108
■ 社会	120
■ 社会…120 ■ 裁判…132 ■ 厚生・労働…138 ■ 教育・文化…144	
■ 環境・科学…150 ■ スポーツ…156 ■ 統計・話題…162	
■ 読売新聞特集 New門	167
■ 読売新聞特集 就活ON!	169
■ 最新時事用語の解説	171
■ 時事問題模擬試験	175

【表紙写真】 2024年衆議院選挙 投票日から一夜 石破首相が会見
Japanese Prime Minister and leader of the ruling Liberal Democratic Party (LDP) Shigeru Ishiba speaks next to LDP lawmakers during a press conference a day after Japan's lower house election, at the party's headquarters in Tokyo, Japan October 28, 2024. REUTERS/Kim Kyung-Hoon/Pool (Japan)
〈写真〉代表撮影/ロイター/アフロ 〈日付〉2024年10月28日〈撮影国〉日本

放課後「新聞カフェ」で考えを深める

関東学院六浦中学校・高等学校（私立・神奈川県）その1

新聞がカウンターに置いてあり、常連客がやってきて目を通す。その時々世間話や社会情勢に話が弾む。そんな街の喫茶店のような空間が、学校にあったらどうだろう。横浜市金沢区にある関東学院六浦中学校・高等学校（黒畑勝男校長）は、生徒が新聞に掲載されているトピックについて語り合う放課後「新聞カフェ」が校内の図書館で開かれている。学年やクラスの別なく、希望者が自由に参加し、新聞を介して対話しながら、社会の出来事を自分に引き寄せて考える力を伸ばしている。

「地球市民講座」「言語力活用講座」など社会への対応力を育成

関東学院六浦中学校・高等学校は、キリスト教の精神を建学の精神とし「人になれ 奉仕せよ」を校訓とする男女共学の私立学校だ。その源流は横浜バプテスト神学校にさかのぼる。1919年設立の中学関東学院を経て、1953年に現在の六浦校地に設立された。同じ敷地内に関東学院大学の金沢八景キャンパスのほか、系列校のこども園や小学校を擁する。

「共に励まし合う人」「社会に奉仕する人」「平和を尊重する人」を育てることを教育目標とし、グローバル化や情報化など急速に変化する社会構造に対応する、教育プログラムを展開している。

同校オリジナルの「地球市民講座」（総合的な学習の時間）は、校訓や教育目標を具現化する授業で中学1年から3年間学ぶ。「市民とは何か」を学び、地球規模課題の解決に向けて、今、自分ができることを考え、行動する人材の育成を目指す。

さらに「言語力活用講座」では、日本語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を強化すべく、新聞を活用して自分の考えを論理的に組み立てるトレーニングを行う。学校で新聞を教材として活用するNIE（News and Education）の実践校でもあり、生徒たちは新聞に親しむ機会も多い。教科の学習でもそれぞれの教員が新聞活用を意識した授業を展開しているという。

新聞カフェの会場は学校図書館

今回紹介する「新聞カフェ」は、いわゆる

授業での新聞活用とは一線を画す試みだ。新聞記事を切り口として、広く議論し、考えを深めるイベントとして、司書教諭の九渡愛美教諭が2022年12月から始めたものだ。月1回のペースで、放課後に学校図書館で実施している。

対象は生徒、教職員で希望制にしており、学年や年齢、コースなどに関係なくフラットな立場で対話するのがモットーだ。新聞カフェの進め方は3つのステップから成る。

最初に、参加者がその日の新聞を5〜10分間読み、話題にしたい記事やトピックを決める。次に、それぞれが気になるトピックがだいたい決まったところで、話したい人から自由に話題提供を始める。最後に、話題提供者が挙げたトピック内容について、参加者の意見や経験談を交わし合い、約1時間で終了する。



関東学院六浦中学校・高等学校

る。九渡教諭は時間管理のきつかけとして声をかけるだけで、あとの進行は参加者に任せている。誰が参加するか、どのような話の展開になるのかは「出たとこ勝負」だ。

10月の新聞カフェは中間考査の最終日、昼食後の放課後に開かれた。集まったのは中学2年から高校1年までの5名。図書館中央の大テーブルを囲んで、早速、新聞を開く。1面からざっと目を通す生徒、決まった面からじっくり読む生徒など、読み方のスタイルは様々だ。

政治・経済からエンタメまで 中高生もここまで気になる

5分ほどして話題提供が始まった。口火を切ったのは高校1年の松井嶺奈さんだ。

「最近、首相が岸田さんから石破さんに変わりましたよね」と、新政権で自分達の生活がどう変わるか、実感が持てないと話した。この日は衆議院



話題にしたい新聞記事を探す

が解散した翌日。衆院選の日程が10月27日と決まり各紙は石破新政権の政策や裏金問題を大きく扱った。それを読んだの話題提供だ。

すると中学2年の今井希美さんが「普段の生活がこれからどう変わっていくのか気になる。物価高なのに給料が上がらないから」と続ける。九渡教諭が「家でもそういう話が出るの？」と尋ねると、「お弁当の食材の買物に（家族と）行くと冷凍食品とかが高いんです」「そう、物の値段だけ上がっていて他は変わっていないと聞くと、今まで何をしていたんだらうって思う」「文化祭で出すクッキーとピザの材料費が高い」「そうそう！」「ワンコインで買った野菜も今は違う」などと、生徒の日常が垣間見える。話題はさらに、お小遣いの節約へと発展。皆、買うのを我慢したり、家事の手伝いをしてお小遣いを増やしたりと、生活者としての顔は大人と同じだ。

報道のあり方や受け止め方も考える

「悪いことをした議員は大きく取り上げる。でも議員なら何か成果を上げたことも本当はあるはずなんだけど、それが報じられていないのでは。（読者に）多面的に物事を見れるように伝えるべきじゃないか」と提起したのは、中学3年の結城一義さんだ。社会科の公民的分野で、公正な世論形成にマスメディアが重要な役割を果たすと習った経験から疑問を投げかけた。一方、高校1年の太田充希さんは、物価高などの問題が先に扱われ、

政策の評価がきちんとされていないと指摘したうえで「でも、それはみんなが政治に興味をもっていないからかな」と、情報を受け取る側の姿勢にも言及していた。

このほかにも、サッカーや野球などの海外スポーツ、AIを活用したコンテンツの話題、有名人のSNS炎上の影響など、一人ひとりがその日手に取った新聞から、気になる話題を挙げ、それに対する意見を交換していた。やりとりを見守っていた九渡教諭は、新聞カフェの良さを「社会の出来事を自分事として捉えることができること」だと話す。

生徒たちはこのカフェをどのような空間だと認識しているのだろうか。次回は生徒たちの声から新聞カフェのよさを見出したい。



自分の考えを述べる生徒たち。学年に係らずフラットに話していた。



編集・取材 長尾康子